

小山工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	物理 I
科目基礎情報						
科目番号	0015		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	電気電子創造工学科		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	柴田洋一他「初歩から学ぶ基礎物理学 力学Ⅰ」大日本図書、柴田洋一他「力学Ⅰ問題集」大日本図書、「フォローアップドリル 運動の表し方」数研、「リードα」数研、「フォトサイエンス物理図録」数研					
担当教員	柴田 洋一					
到達目標						
1. 速度、加速度、変位の関係について基本的な問題の計算ができる 2. 力に関する基本的な原理とニュートンの運動の法則を用いて、力学の基礎的な問題を解くことができる 3. 剛体の静止に関する基礎的な問題を解くことができる 4. 力学におけるエネルギーの基礎的な問題を解くことができる						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	速度、加速度、変位の関係について基礎的な問題の計算が正確にできる。		速度、加速度、変位の関係について基礎的な問題の計算ができる。		速度、加速度、変位の関係について基礎的な問題の計算ができない。	
評価項目2	力に関する基本的な原理とニュートンの運動の法則を用いて、力学の基礎的な問題を正確に解くことができる		力に関する基本的な原理とニュートンの運動の法則を用いて、力学の基礎的な問題を解くことができる		力に関する基本的な原理とニュートンの運動の法則を用いることができず、力学の基礎的な問題を解くことができない	
評価項目3	剛体の静止に関する基礎的な問題を正確に解くことができる。		剛体の静止に関する基礎的な問題を解くことができる。		剛体の静止に関する基礎的な問題を解くことができない。	
評価項目4	力学におけるエネルギーの基礎的な問題を正確に解くことができる。		力学におけるエネルギーの基礎的な問題を解くことができる。		力学におけるエネルギーの基礎的な問題を解くことができない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 ③						
教育方法等						
概要	速度、加速度、変位の基礎的な知識と理解を学習する。 ニュートンの法則を用いて物体に力がはたらくときの運動について学習する。 剛体が静止するための力学について学習する。 力学におけるエネルギーの基礎的な知識と理解を学習する。 授業は講義、演習、実験により行う。					
授業の進め方・方法	1. 授業方法は講義と演習を組み合わせで行う。 2. ほぼ毎回演習課題を課し、提出を求める。					
注意点	・前期中間試験、前期末試験（前期定期試験）、後期中間試験、後期末試験（後期定期試験）の4回の試験(70%)と課題提出物(30%)により評価を行う。 ・出題された演習課題は、自分で解いて、必ず提出すること。 ・自宅での自学自習、特に復習を必ず行うこと。授業ノートと教科書を読み内容を理解する。演習課題を解く。自分で問題集にあたる。					
授業の属性・履修上の区分						
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	速度、加速度	速度、加速度を計算できる		
		2週	変位	変位を計算できる		
		3週	変位の演習、速度・加速度・変位の関係式	等加速度運動をする物体の速度、加速度、変位が計算できる		
		4週	v-tグラフ、a-tグラフ、x-tグラフ	v-tグラフ、a-tグラフ、x-tグラフを理解し、各物理量の関係を計算できる		
		5週	自由落下の実験、自由落下、鉛直投げ下ろし	重力による加速度を求め、自由落下、鉛直投げ下ろしの計算ができる		
		6週	鉛直投げ上げ	鉛直投げ上げ運動の計算ができる		
		7週	速度とベクトルの定義	速さ速度の違いを理解し、ベクトルの定義を述べることができる		
		8週	前期中間試験	これまでの範囲の問題を計算できる		
	2ndQ	9週	速度の合成（ベクトルの合成）、三角比（三角関数）	速度の合成を作図できて計算できる。三角比の計算ができる		
		10週	相対速度	相対速度のベクトル図を作図できて計算できる		
		11週	ベクトルの成分、水平投射	ベクトルの成分を計算できる。水平投射の運動を計算できる		
		12週	斜方投射	斜方投射の運動を計算できる		
		13週	力の定義、合力	力の合成を作図できて計算できる		
		14週	力のつり合い、2力のつり合い、3力のつり合い	2力のつり合い、3力のつり合いを作図できて計算できる		
		15週	重力、弾性力（フックの法則）	物体にはたらく重力を計算できる。ばねの弾性力を計算できる		
		16週	前期定期試験	これまでの範囲を計算できるようにする		

後期	3rdQ	1週	摩擦	静止摩擦、最大摩擦、動摩擦を計算できる
		2週	斜面における摩擦	斜面上に置いた物体にはたらく摩擦の計算ができる
		3週	圧力、浮力	圧力および浮力を計算できる
		4週	ニュートンの3法則、慣性の法則、作用反作用の法則	慣性の法則を理解し、作用反作用の法則の例を述べる ことができる
		5週	運動の法則	実験データからニュートンの第2法則が導かれることを 理解し、力の単位を理解する
		6週	質量と重さ、運動方程式	質量と重さの違いを説明できる。物体に複数の力がは たら場合の運動方程式を立てて解くことができる。
		7週	2体の運動方程式	糸でつながった2体の運動について、運動方程式を用 いて解くことができる
		8週	後期中間試験	これまでの範囲の問題を計算できる
	4thQ	9週	慣性力	慣性力を用いて計算ができる
		10週	剛体、力のモーメント、剛体のつり合い	力のモーメントを用いて、剛体のつり合いの計算がで きる
		11週	剛体の合力、質点系の重心	剛体にはたらく力の合力を計算できる。2体系、3体 系の重心を計算できる。
		12週	仕事と仕事率	力学的仕事および仕事率を計算できる
		13週	運動エネルギー、重力による位置エネルギー	運動エネルギーを計算できる。仕事と運動エネルギー の関係を計算できる。重力による位置エネルギーを計 算できる。
		14週	弾性力による位置エネルギー、力学的エネルギー保存 則	弾性力による位置エネルギーの計算ができる。力学的 エネルギー保存則を用いた計算が出来る
		15週	保存力	保存力による運動を計算できる
		16週	後期定期試験	これまでの範囲を計算できるようにする

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	自然科学	物理	力学	速度と加速度の概念を説明できる。	2
				直線および平面運動において、2物体の相対速度、合成速度を求 めることができる。	2
				等加速度直線運動の公式を用いて、物体の座標、時間、速度に関 する計算ができる。	2
				平面内を移動する質点の運動を位置ベクトルの変化として扱うこ とができる。	2
				平均の速度、平均の加速度を計算することができる。	2
				自由落下、及び鉛直投射した物体の座標、速度、時間に関する計 算ができる。	2
				水平投射、及び斜方投射した物体の座標、速度、時間に関する計 算ができる。	2
				物体に作用する力を図示することができる。	2
				力の合成と分解をすることができる。	2
				重力、抗力、張力、圧力について説明できる。	2
				フックの法則を用いて、弾性力の大きさを求めることができる。	2
				質点にはたらく力のつりあいの問題を解くことができる。	2
				慣性の法則について説明できる。	2
				作用と反作用の関係について、具体例を挙げて説明できる。	2
				運動方程式を用いた計算ができる。	2
				運動の法則について説明できる。	2
				静止摩擦力がはたらくている場合の力のつりあいについて説明で きる。	2
				最大摩擦に関する計算ができる。	2
				動摩擦に関する計算ができる。	2
				仕事と仕事率に関する計算ができる。	2
				物体の運動エネルギーに関する計算ができる。	2
				重力による位置エネルギーに関する計算ができる。	2
				弾性力による位置エネルギーに関する計算ができる。	2
				力学的エネルギー保存則を様々な物理量の計算に利用できる。	2
				剛体における力のつり合いに関する計算ができる。	2
				重心に関する計算ができる。	2
		物理実験	物理実験	測定機器などの取り扱い方を理解し、基本的な操作を行うことが できる。	2
				安全を確保して、実験を行うことができる。	2
				実験報告書を決められた形式で作成できる。	2
				有効数字を考慮して、データを集計することができる。	2
				力学に関する分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説 明できる。	2

評価割合

	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	100

基礎的能力	70	30	0	0	0	100
專門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0